

第70回企画展・城輪柵跡史跡指定60年記念

出羽国府政庁復元竣工記念特別展



復元された、政庁東門

開館期間 平成4年4月23日(木)～7月12日(日)
開館時間 午前9時～午後4時30分
休館日 なし
入場料 おとな100円・児童・生徒50円
65歳以上の方と身体障害者の方は無料です

酒田市立資料館

〒998 酒田市一番町8-16 ☎0234-24-6544

城輪柵研究略年表

1762(宝暦12)	進藤重記が城輪付近を「官人の居城」と推定する 『出羽国風土記略記』
1868(明治元)	出羽国を羽前と羽後に分割する
1873(明治6)	城輪神社焼失す 『飽海郡誌』
1907(明治40)	吉田東伍が木の内城輪に「柵戸」の存在を推定する
1923(大正12)	阿部正己が「出羽国分寺説」を唱える
1931(昭和6)	上田三平が視察し、柵木探索を依頼する 5月6日角材列を発見する 県指定史跡となる (5月19日) 喜田卓吉が「国分寺説」を唱える
1932(昭和7)	史跡名勝天然記念物保存法第一条により「城輪柵跡」として国の史跡指定を受ける(4月25日)・城輪神社村社より県社に昇格する
1961(昭和36)	加藤孝が「出羽国府説」を唱える
1964(昭和39)	内郭部予備調査を行う
1965(昭和40)	第1次発掘調査を実施する
1977(昭和52)	八幡町で八森遺跡が発見される
1988(昭和63)	これまで第38次にわたる長期の発掘調査が行われた(調査担当・酒田市教育委員会)
1989(平成元)	史跡等活用事業として「ふるさと歴史の広場」に指定され整備が進められた
1992(平成4)	政庁地区の南大門と東門および築地塀の一部が実物大に復元され竣工する



▶最初発見の角材列

【城輪柵跡発見の記】

昭和6年5月5日の夜だった。
「おれの田の水路に2本の角材み
たいなものが出ている。ほかにチ
カチカ足に触るものがある。」との
池田幸太氏の発言が大発見のきっ
かけとなった。翌6日、「ケフサ
ク800ホンデタスグクルカヘン」、
柵木の出土を予言した文部省囑託
上田三平にあてられた電報であっ
た。『8日午前、小学校の玄関に
運ばれていた角材を見た時の喜び
は筆紙に尽くし難い、本楯村の日
誌に喜色満面とあるのは、決して
誇大ではない。』と上田はその著に
こう記している。

[目で見る考古学]



①史跡城輪柵跡全景



②発掘区を設定



③遺構の検出作業



④遺構(東門)の完掘状況



⑤精密な平面実測作業



⑩研究の成果を踏まえ、復元工事中の東門

発掘調査から復元まで



⑥破片も「情報の缶詰」



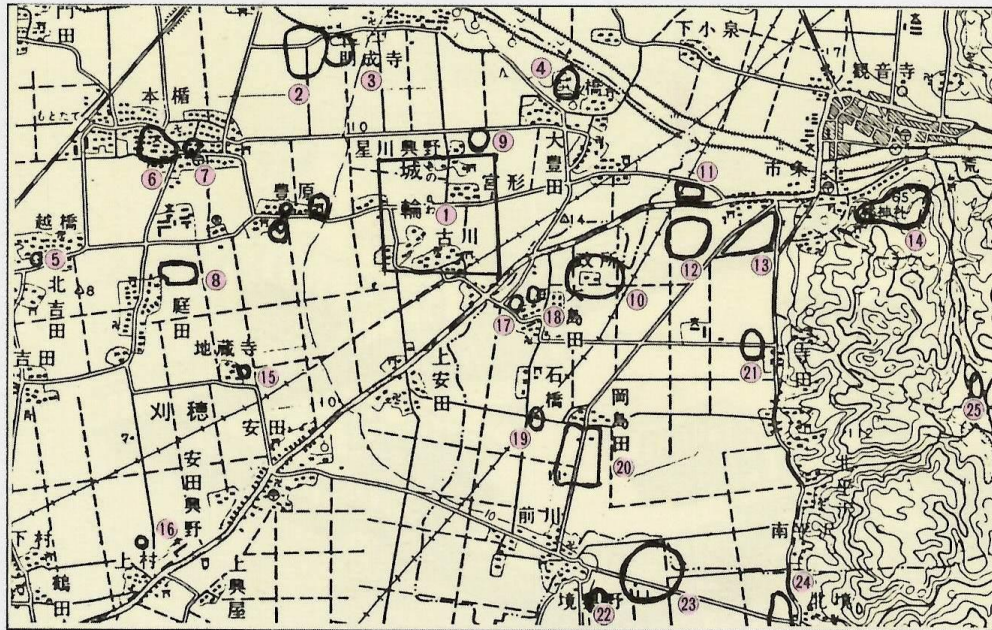
⑨壁土を踏む、体験学習(本楯小)



⑧正確な記録作りと整理



⑦現地での公開説明会



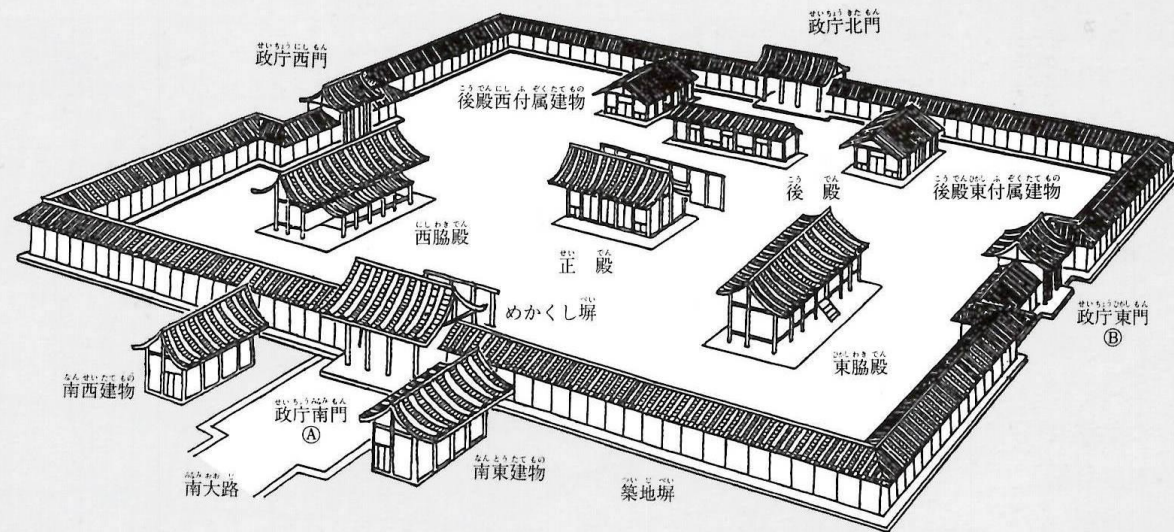
- ①城輪柵 ③明成寺遺跡 ④三橋遺跡 ⑥新田目城跡 ⑨樋の口遺跡
 ⑩後田遺跡 ⑪茅針谷地遺跡 ⑬堂の前遺跡 ⑬樋掛遺跡 ⑭八森遺跡
 ⑰沼田遺跡 ⑳俵田遺跡 ㉑屋敷田遺跡 ㉒境興野遺跡 ㉓上ノ田遺跡

城輪柵と周辺の古代遺跡

遺跡分布図をみると、城輪を中心に半径3kmの範囲内に約30カ所の遺跡が含まれる。城輪柵が約120mを1単位とする方形の地割が想定され、各遺跡の分布にも規則性が認められることが指摘されている。城輪柵の東方約3kmの高台にある八森遺跡では、政庁跡が明確にされ、城輪柵から移転した国府の可能性を強めている。その中間にあるのが堂の前遺跡で、方形に区画された中に、基壇遺構(多重塔?)や筏地業での建築部材等が検出され、寺院跡(国分寺跡?)説が有力となっている。

ほかには「井口国府」ではないか(高橋富雄)とみられる明成寺遺跡、ほとんどの遺跡が古代集落として他地域の同時代にはみられない掘立柱建物であり、国庁に勤める官人や僧侶・様々な技術者等が居住し、ある都市計画に基づいて造られていったものと考えられている。更に、呪符関係の祭祀遺物がセットで出土した俵田遺跡などは、全国に先駆けて出羽国に置かれた陰陽師との関係を語るものなど、今後の究明が期待されている。

〔図〕「^{きのわ さくあと}城輪柵跡」政庁 イメージスケッチ



▶ (A)と(B)が実物大に復元された

史跡城輪柵跡

- 所在地 山形県酒田市大字城輪ほか
- 指定年月日 昭和7年4月25日
(追加指定)昭和56年2月23日
- 指定面積 21.3ヘクタール
- 交通 *庄内空港→酒田市
*JR羽越本線酒田駅より庄内交通バス酒田・観音寺線門屋下車
*JR羽越本線本楯駅より東へ2キロメートル、徒歩20分

史跡は酒田市の北東約8kmのところに位置する。昭和6年に角材列の一部が発見され、上田三平によって発掘調査が実施された。その規模は一辺約720m四方になることが明らかになった。昭和40年からこれまで38回の調査が続けられ、現在は平安時代の出羽国府跡の可能性が考えられている。平成元年からは史跡等活用特別事業の導入により、政庁地区の建物等の一部が実物大に復元された。